

H30年度 校内研修計画

1 目的

- (1) 本校の学校教育目標「ふるさとを愛し、夢を持ち、未来を切り拓く、東っ子の育成」の達成に向けて、効果的な教育方法及び教育技術を模索し、よりよい教育活動を実践する。
- (2) 本校の課題を明確にし、その課題克服のための授業改善を通して、児童に基礎的な学力を身に付けさせる。
- (3) 教職員として、人格・識見・力量を高める。

2 方針

- (1) 国語科・算数科を中心に、児童に、知識・技能の習得及び思考力、判断力、表現力等を育成するために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行う。
- (2) 児童及び教師の人権意識を高めるため、人権教育の研修を推進する。
- (3) 本校教職員が主体的に研修し、活発な意見交換を通して、個々の指導力向上を目指す。

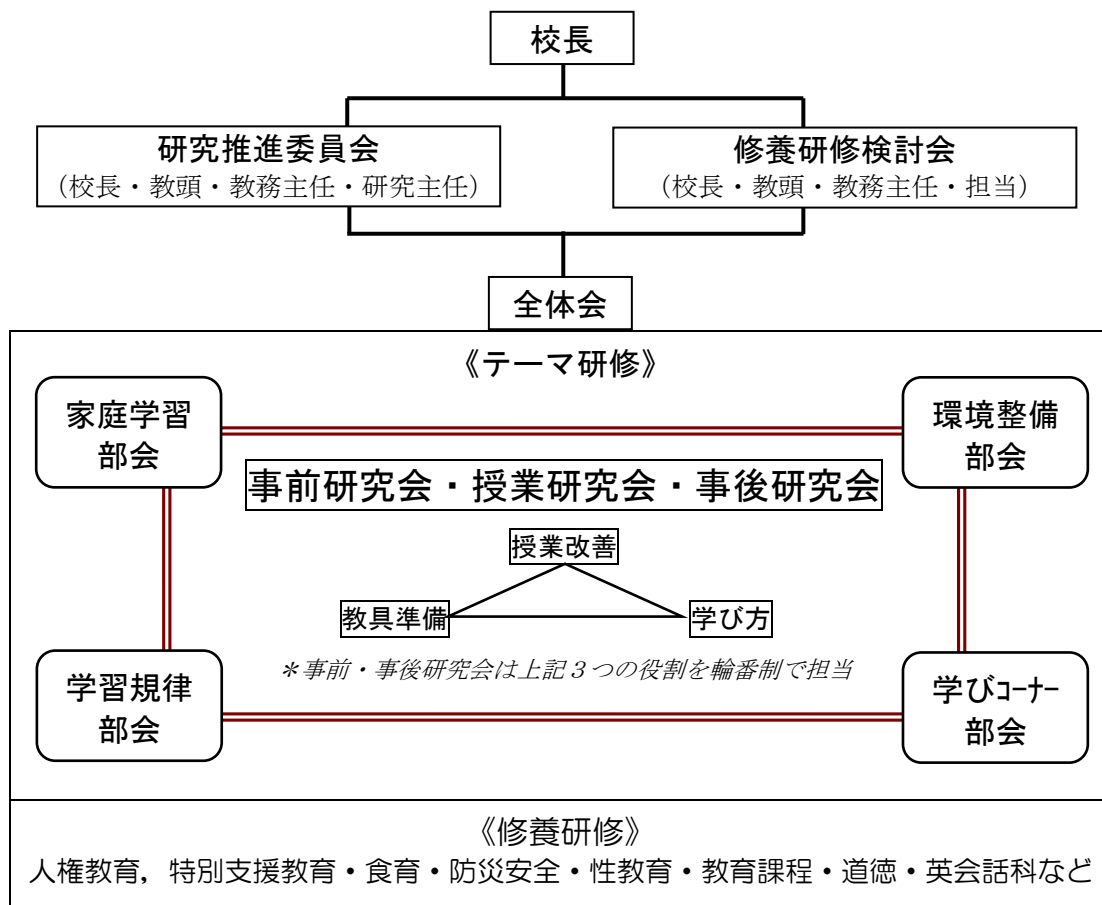
3 内容

- (1) テーマ研修
研究主題に基づいた、国語科及び算数科の授業実践を中心に研修を行う。
- (2) 修養研修
人権教育研修、特別支援教育研修・食育・性教育・教育課程研修・道徳研修・英会話科研修等を行い、指導者としての資質向上に努める。

4 研修の方法

- (1) 原則として、毎週水曜日15:35～16:40に行う。
- (2) 児童下校後16:25～16:45に部会研修の時間を設ける。

5 研修運営の組織



テーマ研修について

1 研究主題

主体的に学ぶ児童を育てる教科指導法の研究
～対話を軸にした学びの質（どのように学ぶのか）を高める授業改善を通して～

2 研究主題設定の理由について

(1) 本校の教育目標から

本校の教育目標は、「ふるさとを愛し、夢を持ち、未来を切り拓く、東っ子の育成」である。教育目標実現のためには、児童が自身を見つめ、夢実現に向け、「何を学び、どのように学んでいくべきか」を自問自答し、それらを実践できる力を身につけていく必要がある。さらには、授業における学びの過程を通じて児童が自分の変容に気づき、「何ができるようになったか」を実感し、その成長を未来を切り拓く原動力として働く自己有用感や自信に昇華できるようにする必要もあると考える。そのためには、日々の授業における児童の学びの質（どのように学ぶのか）を高める方法を探っていくことが重要であると考えた。

そこで、学びの質を高める授業改善を通して、主体的に学ぶ児童を育てるための教科指導法の研究に取り組み、本校教育目標に関わる役割を果たしたいと考えた。

(2) 小学校学習指導要領解説総則から

改訂の基本方針③に、以下のように示してある。

子供たちが、学習内容を人生や社会の在り方と結びつけて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身につけ、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするためには、これまでの学校教育の蓄積を生かし、学習の質を一層高める授業改善の取り組みを活性化していくことが必要であり、我が国の優れた教育実践に見られる普遍的な視点である「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進

このように、生涯にわたって能動的に学び続けるために、児童の学習の質を高める必要性について明記されている。そのためには、児童の学びの質を向上させるための指導者の授業改善が必要不可欠となってくる。さらに、児童が「学習内容を人生や社会の在り方と深く結びつけて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身につけ」るためには、自分自身と向き合ったり、様々な価値観を持った人々との対話したりして自身を磨くことができるようになることが重要であるとも考えた。

したがって、対話を軸とした学びの質を高める授業改善を行うことが、「主体的・対話的で深い学び」実現に向けた、主体的に学ぶ児童を育てることにつながると考えた。

(3) 各種調査結果から

平成29年度全国学力・学習状況調査結果の概要を以下に示す。

国語科の主な課題として、

- ・目的や意図に応じて、場に応じた適切な言葉遣いで話したり、必要な事柄を整理して文章を書いたりすること
- ・具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめること

などが挙げられている。

また、国語科における指導改善のポイントとして、

- 目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように話す指導の充実
- 実用的な文章としての手紙を書く指導の充実
- 目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書く指導の充実
- 物語を読んで感想を伝え合い、自分の考えを広げたり深めたりする指導の充実
- 物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめる指導の充実
- 漢字のもつ意味を考えながら、文章の中で適切に漢字を使う指導の充実

が示されている。

算数科の主な課題として、

- ・資料から式の意味を正しく解釈したり、それを記述したりすること
- ・二つの数量の関係を一般化して捉え、そのきまりを記述すること

- ・示された方法や考えを解釈し、問題場面に適用したり、他の場合に適用して解決方法を考え、それを記述したりすること
- ・基準量・比較量・割合の関係を的確に捉え、判断理由を記述すること

などが挙げられている。

また、算数科における指導改善のポイントとして、

- 問題を解決する過程で、「計算の意味」と「計算の仕方」を関連付けて、計算の能力を身につけることができるようにする指導の充実
- 日常生活の問題の解決のために、必要な情報を選択したり、示された方法を数学的に解釈し、問題場面に適用できるか考察し判断したりする指導の充実
- 異なる量の比較や測定においても、共通する比較や測定の方法が用いられていることを実感的に理解できるようにする指導の充実
- 日常生活の問題の解決のために、データを処理する方法を適切に用いて判断したり、工夫してデータを処理する良さを実感したりすることができるようにする指導の充実
- 図形の構成・分解の活動を通して、図形の性質について理解を深めることができるようにする指導の充実
- 図形を構成する要素及びそれらの位置関係に着目し、立体図形の平面上での表現や構成の仕方を考察する指導の充実
- 数量の関係を一般化して捉え、言葉や式を用いて表現する指導の充実
- 日常生活の事象を、割合や表、グラフなどを活用して考察する指導の充実

が示されている。

平成29年度熊本県学力調査結果（概要）に示された、「分かる授業」のための効果的な取組を以下に示す。

- 「何を学ぶのか」が分かる「めあて」を提示し、解決の見通しをもてるようにする。
- めあてにそって「じっくり考え」「はっきり表現」させる場を設定する
- 基礎的・基本的な知識・技能を定着したかどうか適用問題等で確認する。定着していなければ「きちんと教える」場を設定する。
- 「何を学んだのか」がわかる「まとめ」を提示する
- 「分かった」から「できた」へ誘う「振り返り」の場を設定する。

これらのことから、児童が、「何を学ぶのか」について明確な意図を持ち、どのように学べば、主体的に学ぶ力が身につくのかを、自らが考えて行動に移せるような学習が必要であると考えた。そのためには、児童がこれからの時代に求められる資質・能力を獲得するために必要な手立てを考える事を通して、指導者が学びの質を高めるために自分の授業の在り方を見直し改善することが重要だと考えた。

(4) 児童の実態（本校における平成29年度標準学力検査結果から）

知能検査による学校平均は、全国標準に比べて僅かに上回っており、知的発育は標準的である。また、本校の総合学力平均は、全国標準に比べて上回っている。このことから、基礎的・基本的な知識・技能が概ね定着していることが伺える。ただし、僅かであるが学年間に差が見られる状況である。

したがって、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得に向けて、校内研修を通して授業改善を図るとともに、児童が自ら学ぼうとする態度や、対話活動などの効果的な学習方法についても身につけさせる必要があると考えた。

以上の(1)、(2)、(3)、(4)のことから、児童が主体的に学ぶ態度を育て、それに伴う学力定着を児童自身が実感できるような取組が必要であり、そのことが本校教育目標の達成にもつながると考えた。

そこで、研究主題を「主体的に学ぶ児童を育てる教科指導法の研究～対話を軸にした学びの質（どのように学ぶのか）を高める授業改善を通して～」と設定した。

3 研究主題の分析

(1) 「主体的に学ぶ」とは

児童自らが課題解決に向けて見通しをもち、粘り強く取り組み、課題解決の過程を振り返り、よりよく解決したり、新たな問いを見出したりするなどの学びと捉える。

(2) 「対話」とは

自分の考えたことに応えてもらったり、認めてもらったりすることで学習活動の楽しさや

面白さ、充実感や満足感を感じて、次の活動への意欲を高めることができ、それが児童の主体性へつなぐと考える。そこで、「対話」を、よりよい考えや事柄の本質について説明し合ったり、よりよい考えに高めたり事柄の本質を明らかにしたりする学びと捉える。また、本研究では、友だち同士の対話による学びや、教師と児童との対話による学びに加え、自分自身と内面的に対話して学ぶことも「対話」と捉えることとする。

(3) 「対話を軸にした学びの質を高める」とは

形式的に対話を取り入れることや特定の指導の型を指したものではなく、これまでの教育実践の蓄積から行われる授業の工夫・改善（発問、教材教具、学習形態、ICT活用等）を行い(2)で示した対話により、児童にとっての質の高い学びが実現に向かうことをさす。

4 研究の仮説

仮説 学びの質を高めるために、対話を軸とした授業改善の手立てを取り入れるとともに、児童に必要な学び方を身につけさせる指導を行えば、主体的に学ぶ児童が育つだろう。

5 仮説検証のための手立て

(1) 「学びの質を高める」対話を軸とした授業改善の手立てとその工夫

指導者が、主体的に学ぶ児童を育てるために必要だと考える「対話を軸とした学びの質を高める」授業改善の手立てを導入し、その工夫を図る。

【例】発問指示、学習過程、教材教具、学習形態、机間指導、ICT活用、評価、板書等

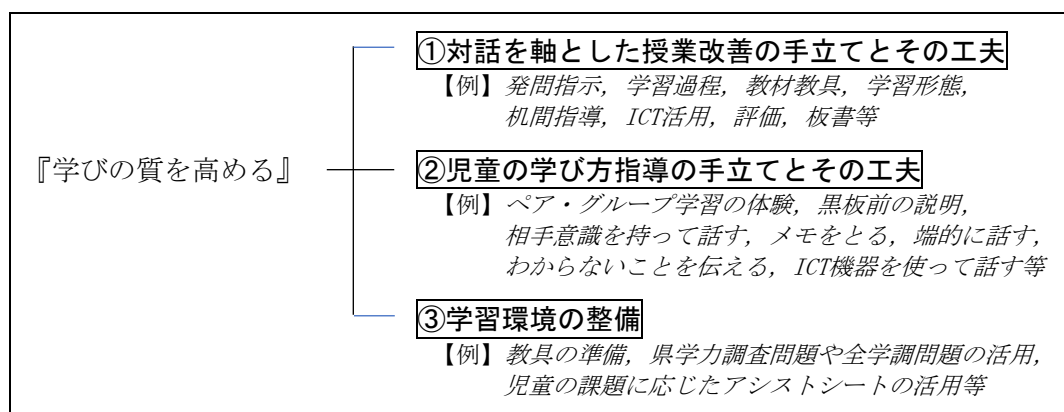
(2) 「学びの質を高める」児童の学び方指導の手立てとその工夫

学びの質を高めるために、発達段階に応じて児童が身につけるべき学び方を明確にし、その学び方を児童へ指導する方法を明確にし、工夫を図る。

【例】ペア・グループ学習を体験する、黒板の前で話す、相手意識を持って話す、わからないことを伝える、ICT機器を使って話す、メモをとる、端的に話す等

(3) 「学びの質を高める」学習環境の整備

学びの質を高めるために、基礎的・基本的な知識・技能を確実に児童が習得できるように教具を準備したり、既存の問題集を再整備したりして、それらを活用できるようにする。



6 仮説検証の方法

(1) 児童質問紙回答結果分析

(2) 検証授業における提案と授業内容分析

(3) 各種調査結果分析

